

七
号発行者/学校法人 吞龍愛育会
吞竜幼稚園栃木県佐野市大祝町2312
TEL 0283(22)0149編集責任者/小林研介
保護者会広報

印刷所/荒畠印刷所

四十年の時の流れの中で

園長 小林 龍雄



▲おとまり会の朝 秋山川にて

今考えれば、私が子どもの問題を仕事とするようになったことにについて、二つの理由がある。よくな気がする。

私は昭和三年（一九二八年）宝龍寺の住職であった小林在龍

佐野を中心とする史跡の保存につとめた。（この写真は認められ昭和天皇に献上する栄に洛した。）

その中に江戸時代の陽明学者、中根東里の項があり、この優れ

た学者が宝龍寺の境内（現在は

天明小学校校庭）に知松庵とい

う私塾を営み、特に東里の主著「新瓦」は幼児教育について述べるものとして高く評価されて

いることを知った。大正期から

昭和初期に活躍した教育学者、

小西重博士は「西洋において

まだ研究せられたる別種の直

觀主義」と評してペスタロツチ

に対比させている。

また、宝龍寺四代住職であつた在龍上人は当時あつた間引きの悪習を生命尊重の仏教主義から強く批判し、寺米を炊き出し、

薄幸の子どもを救うなど

子どもの守り仏としてあ

がめられた聖人であつた。

私が初めての職を児童

相談所としたことも目に

見えない糸が、この二人の偉人に結びつけられて

いたように思えるのであ

る。

昭和二十七年に父が他

界し、二十四歳の私が寺

を継ぐことになった。当

時佐野市長であった総代

の小泉善一郎氏を会長と

する吞龍愛育会を結成し、

昭和二十八年に幼稚園の

前身である幼稚施設を作

つて準備し、翌年の昭和

二十九年に認可を受け吞

竜幼稚園として出発することになった。

当時は戦後の混乱は十

分に恢復されたとは言えない状況であったが、児童憲章なども制定され、新生日本の前途の期待を子どもたちにかけようとする気運の出てきた時代でもあった。しかし幼稚教育の研究書なども少なく暗中模索が続いたが、今頗みれば大変懐かしい思いである。

この間、私もいつの間にか栃木県幼稚園連合会の理事長を務めたり、全日本私立幼稚園連合会の会長を努めたりすることになった。

ささやかな幼稚園の出発から

そろ一つのはじめをつけたいと

考えていたので本園の創立四十周年を契機に園長を辞し、副園長の小林研介を推して退陣することにした。

二十一世紀を前にして新代の

教育は若く新しい人材が支える

ことが望ましいと考えたからである。

今日は過日行われたPTAの

皆さんの方の座談会をテーマで聞かせていただきながら、このよう幼稚園教育の本質を語ることのできるPTAは全国広いと言えども在龍しかないと想いを深くした。これからも在龍の教育は先生方やPTAの皆さん方によつて永遠に引き継がれることが確信でき、こんなに嬉しいことはない。

中根東里は「出する月を待つべし、散る花を追うことなけれ」と壁書に掲げているが、皓皓と輝く月の光を、今將に眼前に見つつこの稿を閉じたいと思う。

もいか。今日は誕生日だか

ら。

中根東里は「出する月を待つべし、散る花を追うことなけれ」と壁書に掲げているが、皓皓と輝く月の光を、今將に眼前に見

つづこの稿を開じたいと思う。

でもらう? 全部! ? それ

いいか。今日は誕生日だか

ら。

副園長 小林研介



モモの散歩は自分の仕事

と思っている彼。朝一番

園に来るなり彼女のことを

連れ出す。道の方には連れて

いかないようにしてね。わか

つているよ。そんな会話が交

わされる。彼が近づくとうれ

しくてモモは相当な年なのに

精一杯の愛情を振りまく。ぐ

いぐいと自分の行きたいところに行く。大事にされて幸せ

な犬だ。十二年前に拾つてあ

る。モモまだ元気だよ。そのうち

いつかたとつくづく思う。

交差点で中学生がこう言う。

先生モモまだ元気だよ。

会いに来てやれよ。そのうち

ね。よろしく言って。まあ

とりあえず伝えるだけ伝え

ておくか。

● ● ● ● ●

瞬でやつと寝息が聞こえ

はじめた。雪滑りも楽し

み、夕食もおなか一杯。

なんに元気でいたのにやっぱりお母さんがいいんだよな。寂しくなつて泣いていた。でも

もう少し軽く背中を叩いて

あげよう。そうすれば安心するだろうから。奥日光の山

の中、外は吹雪。佐野ではた

くさんのお父さん、お母さん

が我が子がどうしているか案じているはず。でも心配はい

りませんよ。見てる夢は絶対にあなたの夢のはずです。

それが自然な子供の姿だから

いつもつづつてもらいましょう。

皆さんこんにちには、今日は保護者会の役員の方、広報係の方さらにお父さんの代表の方にお集りいただき、春雷幼稚園の園新聞「普提樹」に掲載する座談会を行いたいと思います。日曜日からものだとお詫申し上げていますが、まずは互いの感じているところを率直に出し合うことがあります。それは、欠点をカバーすることも大事ですが、それよりも良い点を伸ばそうという考え方に基づくからなのです。それでは早川さんからどうぞ。

早川 何と言つても楽しいのは、あの運動会ですね。お父さんもお母さんも子供と一緒になつてやれるのが素晴らしいと思います。今年のテーマはお化けでした。が仮装もほんとに愉快であります。それが毎月てるクラスだよりは楽しめます。子供のこと園の先生方が良く見えていて気づかいがよくわかります。だからのがわかります。ほかの幼稚園のもの見たことがあります。佐野の有線テレビでも放送しましたが、あれは視聴感覚がいいと思ひます。(笑)

落合 私も運動会は凄いと思ひます。佐野の有線テレビでも送りましたが、あれは視聴感覚がいいと思ひます。それに副園長先生が私達と役員会はもちろんのこと、こういう場や園庭などでいろいろと気兼ねにお話してくれるのがいいですね。ほかの先生たちも私は子供が送り迎えなんで、細かいことをちょこちょこと話してくれます。子供の話以外でも長はなしをしてしまうこともありますよ和氣あいあいとした限りのなに園だと思いますね。

伊吉 私は五年間子供がお世話をつたんですけど、子供だけではなく親も一緒に楽しませてもらいました。前は別のところに住んでいたので上のお姉ちゃんは違う幼稚園に行っていたん

これが好き

者

早川久味子（ふじ）
落合房子（ふじ）
永倉正嗣（ふじ）
小代友子（ふじ）
伊吉佳子（ふじ）



です。そこでは下の子も生まれたばかりといふこともあって私も園にはほとんど行かなかつたし、園からの手紙も月に一回ほどしか出ないので何をやつていいのかわからなかつたというが正直なところでした。でも春竜では子供と一緒にいるなんとかができます。ほんとに満足しています。一番良かつたと思ふことは、親としてああして欲しいこうして欲しいと思つていうことを気軽に先生に言えたということです。園長先生とはあまりお話ししませんでしたが副園長先生にはいろいろなことを聞いて頂き、それを汲み取つて頂いたことがよかつたと思つています。

小代 見を大事にしますね。十のときも、女が大好きだから、うまくとりいりの発想を先生にいうか、そんころだと思いつく展もお母さん劇がきつかけてくり、そしてにと広がつてはうちではようななかづやつた。その保育園を見たのですでに劇場づくりをはじめたんの内田先生に、かと聞いたら、いうのは、今もあることをいといふもの自分の興味ですよと言いました時に幼児期の広い気持ちで

るのだなと思いませんか。副園長 そうですね。学校三年生くらいの風でもよいのかなともします。それからことにもかかわらず、このあいだ雪が降つた一年生の長男なんらか、おもてにいたよ。学年もあるのでして、この時期、自分がやれたといふことがあります。やる気なんですね。やる気生まれること。やる気につきのことで身も心も、うござりますね。教材屋でも売つるものですから、うごく病気になるくらいでした。そうしたかたが幼稚園教育です。そりやすどよ。でも雪は冷たさで、たらどうするか、服がかわくこと、経験から学ばせたいことなのです。 小林 私は二人年間お世話をなります。

なつた。
ね。ほんとは今まで、そちらなどなつたりません。
主体性といいます。こ
とで、うちらの学校には学校の
日だ。うちらは雪合戦もや
りやうが。でも、やるうとした
うれしい経験が大切
ふってそこからされ
けやらないとい
入らないとい
よね。まあそれ
ではくはれない
くよじます。
いへこと。よ
子供とあはれ
。ストップで
みんな実験
くべてはならな

うの親で、良くなれ。活も
うの親で、良くなれ。活も



家族にとつても感動だったのです。行事に参加するたびに、あそこまできたのかと思うとゾーンときました。香竜幼稚園でその子に合わせて無理をしないというか、それは大変なことだと思いますが、でもそれをしてもらつたおかげで最初の集団生活にうまく入れたと思っていました。そのときこちらを紹介してくれた人が卒園の時にこの園の良さがわかるよって言つてしまふたけど、あのアルバムをもらつてこれかと思いまし。三年間の親も知らないでの姿がスナップ写真がまとめていたたけるんですものね。あのアルバムは私にとってもあの子にとっても宝物です。それにいつも思つていたのですが、折り紙なども教えこむという方法をとりませんね。子供同士でやりながら覚えていくというか。また文字や数字もそうですね。自然に覚えていくようですね。

副園長 いやいやほんとは自らじゃないんですよ。砂場のシャベルの置場など、シャベルの入っている数がちゃんと決めて表示してありますよ。例えば片付けのとき九個しかないから三個足りないなんて子供同士で言つています。またボール置場たつてサッカーボール、ドッジボール、ラグビーボールなどわれわれ番号がふってありますよね。それは数や種類というものに気付いて欲しいなと思っていますからなのです。つまりいっぱい遊ぶと頭も使うことになるよう

園中に仕掛っているわけです。」
「一クックで覚えさせたりじょ
いのが幼児教育の大切なところ
とでもいうのかな。先生の配慮は
はたくさんあるのですが、そな
に前に出さない。だからその幸
味で自然にと言わせてとてもよ
く思いました。家族でどこかの幼稚園
にいれようかなつとなつたとき、うちの人たちがお母さん
が先生も知ってる、手洗いも、
トイレも知っている所なら安心だ
と思いました。家族でどこかの幼稚園
にいきたいけど、なんと入れる前か
ら悲しくなるくらいお父さんも
含めて幼稚園で楽しんでいます
子が入ります。でも幼稚園にい
うちの主人なんか前は運動会の
仮装も考えただけでいやにな
いと思うと、なんと入れる前か
らやうなんて言っていたのに、
今年は僕も何とかしていきたい
けどお説明が何かで、で今はま
んて言うほどです。で今はま
りの人にあそこは私の通り
幼稚園なの、そこに子供も行
ているのどうれしくて言つてい
ます。前にこんなこともあります
した。ブールで知り合ったお母
さんに呑竜のことをすすめたら
ですよね。絶対にいかからつて
したらそのお母さん一人で园
子の入園のことと迷つていたの
ですぐに見学に行つたそな
つて庭に入つて行つたらな
いました。それでほんとに気に
入つちやつて親子ともに楽し
かがバツと明るくつて腰をかしづ
感じがしたんですつて。それで
副園長先生とも話して二月頃ま
で最後は保護者会の副会長まで
にしたいくつ思つてますね。園
香竜でいいからつて言つてあ
るいてますよ。

國事下のかくんにらんこなに。のの。んほよやつんよ「」。の。もかな松のにま心
んたぬにいで。わ思れ思つよ



を聞くのも楽しみです。ほんと
にお勉強なさつているんだなと思
います。あのお年であんなに
は勉強なさらないものですよ。

1000

小野 私はこの町の出身ではないで上の子が幼稚園に入る前の年に、この町にはどんな幼稚園があつてどんな特色があるのかという情報を聞いて回りました。だつて幼稚園というのには、子どもが初めて入る団体生活の場ですから、親が安易な考え方で決めては子供に対しての責任がはたすことができないと考えたからです。ちょっと見えてますと

がないから樂でいい、そんな理由からです。それぞれ考へが悪い言えませんが、やつぱりなんなわけいろいろな幼稚園に行つたわけです。子供は遊具がたくさんある遊園地のよんなところを喜ぶのですね。そして春電幼稚園にきましたら丁度お帰りの頃だつたと思ひますが、するとお父たちが「こんにちは。こんにちは。」「とつとも明るく挨拶をしてくれるのです。こんなのが今まで行つた幼稚園にはなかつたと思ひました。迎え入れてくれる明るさというものが違うのですよね。そして春電幼稚園に通わせていたというお母さんには話を聞いたら、ちょっと他の幼稚園とは違うわよといわれました。どこが違うかと聞いたら、考え方方が違つたみたいってことされました。えーどういうことかなど思ひ更に聞いてみると、画一的ではないということでしょうか、でも変わっていると言わされました。(笑)それで最終的に家族会議をして決めました。

四百三

香竜のこ

参 加

阿部 弘之（たんぽぽ）
小野万記恵（ゆり）
大西 美幸（たんぽぽ）
磯 八代栄（さくら）
馬場美千子（さくら）
副園長

入ってみてびっくりしたのは考え方が柔らかいことでした。たといがいは先生から、お母さんこそはこうなんですよ、と言わわれたらああそうですか?ということになつてしまつと思いますが、こういうことが多いけどきっとこんなふうかもしれませんね。という柔らかい考え方なんですね。ですから子供がとても素直に楽しく幼稚園に来られたつて思います。

小野 それから春谷幼稚園で季節ごとにいろんなことをしますけれど、春に竹の子を家に持ってきたことがあります。それはうちの子が竹の子が好きでどうしても家の持っていたいといったら頼んだみたいなんです。ふとうだつたらみんな持つていかないんだからダメと言われるところなんだろ？けど、坂巻運転手さんがみんなには内緒だよって渡してくれたそうです。黒いゴミ袋にわからぬよう包んで大事そうに持つきました。子供の気持ちを尊重してくれたこと、が親としてとてもうれしかったんですね。春谷に入れてよかつたとつくづく思ったことの一つです。

てまず思つたことは、母親は直劍に子供のことを考へているのだなどといったことです。父親はそこまで考へてゐるが（笑）反省をしています。物を含めて兄弟四人ともこの幼稚園をでてから四年になりますが、子供はここにお世話をなると思つていました。なので今皆さんのお話にでたようなことはまったく思つていなかつたのです。それはそこで育つて私のところは男の子が三人でして、父親としては男なので強くたくましく育つて欲しいということに尽きます。卒園の文集にもどんな子供に成つて欲しいのか書く欄がありますが、強くたくましくいいと言つたら女児からそんな單純なのは駄目と。言われまして（笑）。ただ身体が丈夫でなくつてはそれから育たないんじゃないのかと思つてあります。自分の身体を自分で鍛えて、自分で考へて自分で遊ぶという教育理念は園長先生からもよく聞かせて頂いておりますので、安心してお預けしている

聞いてくれるということです。うちの子は話しが好きなので、「聞いて、聞いて」が多いのですが、通園のバスの中では十分に話が聞けませんよね。すると後でわざわざ電話してきてくわくて、バスの話の続きを聞いてもらえるほどです。私じゃなくて子供に電話をくれるんですよ。そういうのは子供の心に残ると田山返事をくれるのです。あの人數でそれをしてくれるのですからほんとうに有り難いと思っています。

副園長 今日は二人のお父さんにも来ていただきまつた。お二人とも卒園生でした。幼稚園は学校法人が設置しているのですが、その法人の評議員という立場もあります。ですが、今日はお父さんとしてご発言ください。

永倉 私も卒園生なので何の迷いも無かつたわけです。女房はいろいろ調べたかったのですが知れませんが、その必要はないということです。私の方はぜんぜん考えて無かつたわけです。しかし結論から言つて選択はまつたく間違つていなかつたわけです。その理由は極めて単純なのです。それは子供がぜんぜん幼稚園を休みたがらないのです。例えば、まあこういうことはしてはいけないのでしようが悪戯をして言うことを見かない時など、幼稚園に行かせないとどうとぐに言うことを聞くわけです。そのぐらいい幼稚園は楽しいんだらうな。ならばその幼稚園はいい幼稚園なのだと思つわけです。私自身としてもこんな子に育つて欲しいということはいろいろあります。皆さんの話を聞いていて間違いやなかつたなど

していっていると感じているんだなと思いました。
副園長 どうも皆さんは
ありがとうございました。
私が皆さんのおつしやられてることを聞いてうれしかったことは、私達が大切にしていたことを気付いてもらっていたということなのです。もちろん気付かなくても私達は毎日の保育を進めていくわけですが、やっぱりわかつていて貰えて嬉しいわけです。お父さんやお母さんと同じ思いだったんだと今日さらに確認できたわけです。春童幼稚園も来年で四〇年になります。お話をのなかでもありましたがあまりもつづけたいとおもいます。歩

不安もあるわけです。でも一番大切なのは、自分の子供が楽しめて、楽しいことが素直に言えたりできたりすること、それが一番の個性なんじゃないかと思つて頂いている。そういうのをさせて頂いているから楽しいんじゃないだろうかと思うわけです。
で間違いじゃなかつたと思っています。それと園舎の話をしますと、私がいた頃とほとんど変わっていないわけですが、(笑)
それでもいいんじゃないかと思います。むしろコンクリートのところに入っていることなんかを思うと、ソツとしないでもないのです。要是いれものではないのです。人間として必要なものでなくて、子供たち自身で、知らないうちにも気付かせてくれると言つたことが大切であると思います。今日はこの座談会に出席しまして、皆さん形は違うのだけど、それを子供たちの中に芽生えて伸ばさなくてはいけないのです。

